

2011 夏季高岡万葉セミナー

万葉集と環日本海 I

大陸や半島と日本の都を結んだ海のシルクロード。
万葉の時代、日本海は大陸への表玄関だった。

期日 平成23年
8月20日(土) 13:00~16:30
21日(日) 9:30~15:00

会場 高岡市万葉歴史館 / 講義室

◆受講料：2日間 3000円（学生1000円）

◆定員：先着120名

※原則として2日間の受講に限ります。

※周辺に食堂がありませんので、21日(日)は昼食をご持参いただくか、1週間前までにお申し込みください(1000円)。

※富山県生涯学習カレッジ連携講座です。

秋季高岡万葉セミナーとあわせて受講すると10単位交付。

8月20日(土)
13:00~16:30

第1講 古代日本語と朝鮮語

藤本 幸夫 (麗澤大学大学院教授・富山大学名誉教授)

第2講 環日本海交流と古代漢詩の出発

辰巳 正明 (國學院大學教授)

8月21日(日)
9:30~15:00

第3講 日本海文化の中の古代越中

藤田 富士夫 (敬和学園大学非常勤講師)

第4講 万葉集と朝鮮半島

梶川 信行 (日本大学教授)

第5講 遣新羅使人たちの航路の歌

平館 英子 (日本女子大学教授)

●申し込み方法 講座名・郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・21日(日)昼食の申し込みの有無を記載の上、ハガキ・電話・FAX・E-mailなどで下記にお申し込みください。高岡市万葉歴史館受付でも申し込みます。受講料は、当日受付でお支払いください(おつりのないようご注意ください)。
※お知らせ頂いた個人情報は受講の通知・講座日程の変更通知に必要となります。これ以外の目的に使用する事はありません。

高岡市万葉歴史館

〒933-0116 富山県高岡市伏木一宮1-11-11
TEL: 0766-44-5511 FAX: 0766-44-7335
E-mail: manreki@office.city.takaoka.toyama.jp
http://www.manreki.com



- 交通のご案内**
- ・JR高岡駅より車で25分
 - ・JR高岡駅正面口4番のりばよりバスで約25分乗車…伏木一宮下車…徒歩7分(西まわり古府循環・東まわり古府循環・西まわり伏木循環行きなど)
 - ・JR水見線伏木駅より徒歩25分・能越自動車道高岡北ICより車で約20分

2011 秋季高岡万葉セミナー 万葉集と環日本海 II

日時：平成23年10月30日(日) 会場：高岡市万葉歴史館 / 講義室

講師：上野 誠 (奈良大学教授)・川崎 晃 (慶應義塾大学非常勤講師・元高岡市万葉歴史館学芸課長)

第1日**8月20日**

開講式 13:10~13:20

第1講

13:20~14:50

古代日本語と朝鮮語

ふじもと ゆきお

藤本 幸夫 (麗澤大学大学院教授・富山大学名誉教授)

日本語と朝鮮語の類似性は、古くから注目されてきた。起源的に同一言語に属するや否やは、明らかではないが、酷似することは否定しがたい。古代には朝鮮の文化的影響を深く受け、文字文化も例外ではなかろう。古代朝鮮の語彙や歌謡の表記、近年発見の返り点による訓読、更には角筆オコト点による訓読などを通じて、古代日本語表記法との異同を探る。また近年出土の木簡や楽浪遺跡発見の木簡『論語』にも言及する。

**第2講**

15:00~16:30

環日本海交流と古代漢詩の出発

たつみ まさあき

辰巳 正明 (國學院大學教授)

古代の環日本海は、東アジア文化交流の舞台であった。その海は、漢字や書物など多くの文物を古代日本にもたらした。だが、必ずしも波の穏やかな海ばかりではなく、時には韓国や中国と激しく対立し、紛争をも巻き起こした。この友好と戦いの歴史が、環日本海の歴史であった。だが、そうした中から新たな文化が誕生する。古代の漢詩文化である。懐風藻の漢詩の出発は、そうした環日本海の紛争の歴史とともにあったのである。

**第2日****8月21日****第3講**

9:30~11:00

日本海文化の中の古代越中

ふじた ふじお

藤田 富士夫 (敬和学園大学非常勤講師)

演題の「古代越中」の領域は、政治史のそれではなく富山湾の「海人」が主に活躍した沿岸域を想定している。婦負平野(富山市)では弥生終末期に出雲文化との交流によって四隅突出墳が築かれた。また、交流の一断面は『古事記』八千矛神の沼河比売求婚や『出雲国風土記』国引神話などに見られる。かかる素材を考古地誌学の視点から検討することによって、古代越中の基層文化の特徴をより鮮明にする試みを行いたい。

**第4講**

11:10~12:40

万葉集と朝鮮半島

かじかわ のぶゆき

梶川 信行 (日本大学教授)

『万葉集』は「漢字」という東アジアの共通言語で書かれています。その点一つを取って見ても、それが8世紀の東アジアにおけるグローバル化の中で形成された書物であるということがわかります。渡来系の人たちの活躍も目立ちますが、その多くは朝鮮半島から渡来した人たちの子孫でした。彼らの活躍を見据えることを通して、東アジアの中の文学としての『万葉集』という一面を明らかにしたいと思います。

**第5講**

13:30~15:00

遣新羅使人たちの航路の歌

たいらだて えいこ

平館 英子 (日本女子大学教授)

天平8年夏6月、新羅に向けて難波を出航した使人たち一行の歌群として、瀬戸内海を山陽道沿いに西航し、筑紫館での滞在经过対馬に至る往路の歌と、家島を詠む帰路の歌とが『万葉集』巻十五に記載されている。旅の辛い心情を繰り返し吐露する歌群として知られるが、ではその航路における瀬戸内海の景にはどのように対しているのか、景の表現のありようを探ってみたい。



歴史館の最新情報、日々の出来事はこちら!

●公式ホームページ <http://www.manreki.com> ●「高岡万歴日記」(公式ブログ) <http://www.manreki.com/blog/>
 ●ツイッター 家持くん @manreki ●お知らせメール(メールマガジン登録) <http://katakago.info/mail/form.cgi>
 お知らせメール登録はこちら→

